



©JDFA

聴覚障がいがある人たちの **オリンピック**

**デフリンピックが
福島県にやってくる。**

TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

Jヴィレッジにて

**日本初
開催**

サッカー競技開催

デフリンピックとは?

東京2025デフリンピック概要

【日程】

2025年11月15日~26日

【種目】

陸上、水泳、卓球、サッカーなど21競技

【会場】

東京都、福島県、静岡県

デフ(Deaf)とは英語で「耳が聞こえない」という意味。デフリンピックは聴覚障がいがある人にとって最高峰の国際スポーツ大会です。2025年、東京都をメイン会場に、70~80か国・地域から約3,000人の選手が来日し、競い合います。2025年の大会は、国内初開催であり、初回のデフリンピックから、100周年を迎える記念大会となります。



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS



きこえない中でスポーツをするということ。

きこえる人のスポーツではチームメイト同士の声がかげで判断し、次の動きをとる場合が多いですが、きこえない人はそのような情報が入らないのでアイコンタクトやサインでコミュニケーションをとりま^す。
目で多くの情報を受け取るうとするので、目が大変疲れるそうです。
また、審判の合図なども音ではなくフラッシュランプや旗などで視覚的にわかるように工夫がされています。



©JDFA

サッカーとデフサッカーのちがい

ルールは同じ

人数/11人 試合時間/45分 ピッチサイズ/フルコート
特徴/基本は同じルールですが、デフサッカーの主審は笛とフラッグ両方使用します(選手が笛の音を認識できないため)。国際試合ではさらに両ゴール裏に1人ずつ、合計5人のフラッグを持った審判員が、プレーの停止を多方向から伝えます。



きこえない・きこえにくい人とのコミュニケーション

手話にふれてみよう

手話は、聴覚障がいがある人の生活の中で生み出された「手のことば」で、大切なコミュニケーションツールです。手の形や動きの方向・大きさなどによってさまざまな意味を表すことができます。また、顔の表情や体の動きも使い、感情を豊かに表現できる言葉です。

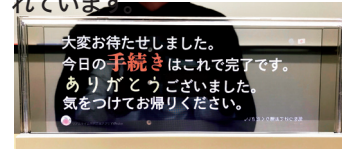


手話じゃなくても。

聴覚障がいがある人の中には手話が使えない人もおり、筆談などを好む人もいます。英語表記やピクトグラムなど、文字やイラストを使って工夫すれば、障がいがある人もない人も、皆がわかりやすいですよ。

コミュニケーションを助ける新たなツール

障がいのあるなしにかかわらず、誰もが円滑にコミュニケーションできるよう、技術開発が進められています。



音声テキスト化し、内容に合わせた書体で表示する透明ディスプレイ。互いの顔を見ながらコミュニケーションができる。

デフ選手ってどうやって応援すればいいの？

選手達はきこえなくても、サポーターの表情や鼓動で、たくさんの声援を感じています。身振り手振りを使い、手話も交えながら、大いに声を出して応援しましょう！

国際手話もあります

国際手話は日本手話とは異なる手話で、いろいろな国の人にとってわかりやすい身振りや表現で作られており、国際的な交流の場で使われています。

東京2025 デフリンピック大会エンブレム

国内唯一の聴覚障がい者、視覚障がい者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部がエンブレムのデザイン案を複数制作し、令和5年9月3日に、東京都内で開催されたグループワークにおいて、3つのデザイン最終候補案の中から東京都内の中高生65名(ろう学校を含む)の投票により決定しました。

手

- ・デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表現。
- ・デフリンピックを通して、競技と話題に「触れて」欲しいという想いを込めた。

輪

デフリンピックに「触れた」ことで、少しずつお互いに交流やコミュニティが「輪」のように繋がっていくことを表現

花

- ・輪が広がった先には、「新たな未来の花が咲いていく」という意味を込めた。
- ・桜の花弁をモチーフ

色

世界中から沢山の人が集まる大会なので、赤・黄・青・緑の色で多様性を表現



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

県内の障がい者スポーツに関する情報はこちらから！

